

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371200066
法人名	社会福祉法人 姫戸ひかり会
事業所名	グループホームひかりの園ビハール館
訪問調査日	平成 20 年 12 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4371200066
法人名	社会福祉法人 姫戸ひかり会
事業所名	グループホームひかりの園ビハラー館
所在地 (電話番号)	上天草市松島町今泉1004-1 (電話) 0969-56-1900
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年12月5日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	9 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 89.5 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまうち医院 タケモト歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上に、特別養護老人ホームに併設して開設され5年目。仏教の教えに基づき、利用者にビハラー(安らぎの場所)を提供することを理念としている。一人ひとりの生活歴・職歴・趣味嗜好等を基に、ホーム独自に作成したリビングプランを活用し、各人がその人らしい生活を送れるよう支援している。明るく、向上心に溢れた職員は、入浴を中心に介護技術の研修を重ね、技術が向上することによりモチベーションが上がり、自信を持ってケアにあたっている。緊急時や非常災害時等の併設特養との協力・連携体制が整備されており、利用者・家族・職員に安心を与えている。リビングでは会話が弾み、大きな笑い声・笑顔溢れるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域への貢献、地域との交流としてホームとしてできることを検討した結果、ぞうきんを縫ったりチラシでゴミ箱をつくって小・中学校や保育園に寄付する活動を始めている。また、運営推進会議議事録を会議の欠席家族へ送付し、家族とのコミュニケーションを厚くする対応を実施している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) グループホーム会議で評価の意義について説明し、全職員が理解したうえで、それぞれがケアを振り返り100項目の自己評価を行っている。できていなかったことについての気づきが生まれ、サービスの向上につなげていく良い機会となっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、入居者の動向・行事報告や実施予定と、入居者の日常の様子や評価の説明・結果報告等を行っている。行事について意見を求め、家族委員の意見を基に計画を立てたり、料金改定等についても説明を行い同意を得ている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議は全入居者・家族を対象としており、ホームの行事の日にあわせて実施し、多くの参加が得られるよう配慮している。また、家族の面会が多く、その際、入居者の様子や生活状況を知らせている他、会議にあわせて写真をふんだんに取り入れた広報誌をつくって家族に配付し、安心を与えている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地理的に地域の方が気軽に立ち寄れる環境ではないが、地域の行事等には積極的に参加している。地域への貢献として、ぞうきんを縫ったり折り込みチラシでゴミ箱を作って小・中学校や保育園に寄付する活動をしている。また、隣接の特養とよく行き来し、催し物に参加したり、友人に会うなど交流を大切にしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ビハーラ(やすらぎの場所)の実現をめざし、その人らしい生活を支えていく」ことを理念として掲げ、安らげる場所である家族・知人・地域等とのつながりを大切にしたいケアを行っている。	<input type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念である「ビハーラ」を念頭に日々のケアを行うよう、申し送りやグループホーム会議等の中で個別のケアを振り返り検討し、理念の実践に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々が気軽に立ち寄れる地理的環境ではないが、五橋開通の祭りや、入居者の出身地域の祭り等、地域の行事には積極的に参加するようにしている。また、小学校や保育園から併設の特養で踊りや歌の披露がある時は参加したり、体験学習も受け入れている。また、地域への貢献として、ぞうきんを縫ったり折り込みチラシでゴミ箱をつくって小・中学校や保育園に寄付する活動を行い、併せてグループホームのPRを行っている。また、隣接する特養との交流を大切にしており、散歩がてら友人に会いに行ったりしている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で評価の意義について説明し、全職員が理解をしたうえでそれぞれがケアを振り返り、百項目の自己評価を行っている。できていなかったことの気づきが生まれ、改善項目については改善策を検討し、サービスの向上につなげている。	<input type="checkbox"/>	
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地区担当民生委員、市地域密着型担当者等をメンバーとして、年5回実施している。入居者の動向、行事の報告や実施予定、日常の様子、評価の説明や結果報告等を行っている。行事については家族委員の意見をもとに計画を立て、料金改定について説明し同意を得たりしている。	<input type="radio"/>	より多くの方にホームの理解者・応援者となってもらうため、警察・消防・老人会役員等多様な人材をゲストとして招き、話をしてもらったり意見をいただくのもよいと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議はホームの行事(そうめん流し、餅つき、バーベキュー等)と同日に行い、市担当者にホームについて理解を深めてもらう工夫をしている。また、管理者は、市高齢者保健福祉計画及び市地域福祉計画の策定委員会、市包括支援センター運営協議会、市介護保険審査会等の委員を務めており、情報交換を行い、サービスの質の向上に寄与している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	多い方は週3回ほど、少ない方でも月1回の訪問があり、その際入居者の様子や生活状況を報告している。また、運営推進会議の開催に併せて、行事等の写真をふんだんに取り入れた広報誌を発行・配付し、入居者の表情を伝えており、家族に喜ばれている。なお、欠席の家族には郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事と同日に運営推進会議を開催し、多くの家族が参加するよう配慮している。意見箱を置いたり、面会の都度意見要望等あったら言ってもらおう話しているが、ほとんど出てこない。	○	家族だけでの話し合いができる家族会の設置や、利用者(家族)アンケート等をするのもよいと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間離職者はおらず、異動があった際は、できるだけ早くお互いに馴染み、入居者のダメージを少なくするよう、1週間から1カ月程度実習期間を設けている。また、異動後も時々ホームを訪問したり、入居者が異動先に会いに行ったりと、不安を解消する配慮も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのレベルに併せて目標を立て、年4回面接をし、評価を行い、人材育成に取り組んでいる。毎月初めには法人全体の研修が行われる他、GH独自に2～3カ月に1回、介護技術研修を行っている。著名な実績のある外部講師を招き、これまで知らなかったことが身に付き、技術が向上することにより、職員のモチベーションがあがり、自信となり、仕事が楽しくなるという効果をもたらしている。また、資格取得について、アドバイスや時間的配慮等を行い支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH天草支部連絡会議が3カ月に1回行われ、情報交換を行っている。また、外部講師を呼んでの研修には、他のGHにも参加を呼びかけたり、3つのGHで訪問し合っ、お互いに良い点・悪い点をアドバイスしあう実践発表を計画するなど、周囲のGHも一緒に向上していく取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問して顔なじみになったり、ホームに来てもらって詳しく説明し、見学して雰囲気を覚えてもらっている。しかし、なかなか馴染めない入居者も多く、信頼関係を少しでも早く築くため、入居後しばらくは何度も入居者のもとに足を運び、職員も自分が一番に仲良くなろうと競って関係づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の畝の作り方、野菜の作り方、料理の作り方、昔からの行事のしきたりなど、入居者から教えてもらうことも多く、入居者の得意なことを学びつつ、一緒に活動。支え合う関係づくりができています。また、入居者同士の助け合う気持ちも芽生えており、くつを履くときに手伝ったり、トイレに行きたい人を職員に教えてくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントを詳細に行い、入居者一人ひとりの家族構成、職歴、生活歴、趣味嗜好等把握を努力し、記録が行われている。アセスメントシートは年1回更新し、常に新しい情報を把握・共有している。また、日々の生活の中で、何を希望されているのか、時間をかけてゆっくり話すようにしており、その人のペースでその人らしく暮らせるよう、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをもとに、本人・家族の要望を取り入れ、担当者会議で検討してケアプランを作成している。個人ごとにさらに詳細なリビングプランを作成し、24時間の生活サポートについて職員間での情報の共有を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは半年に1回見直す他、状態の変化に応じてプランを変更している。家族の面会も多く、コミュニケーションも取りやすいことから、家族の意見を取り入れ、現状に即したプランになるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	散歩や買い物等の外出や外食 の希望に応じ、その都度でき るだけ対応している。また、実 家への外出の要望があれば、 家族に協力を依頼したり、昔 からの行きつけの美容院に行 った際には知人に会えるよう 段取りするなど、個別に柔軟 な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人・家族が希望したかかり つけ医との関係を大切にしてい る。受診の基本は家族が行っ ているが、職員も同行し、本 人の様子を説明したり医師の 話を直接聴き、ケアに役立 てている。急変時や夜間の医 師との連携も十分とれており 、本人・家族・職員の安心に つながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した際は、家族との面 会を重ねて終末期のあり方につ いて話し合っている。医師の 意見や本人の状況、本人や家 族の思い・GHでできる対応を 考え合わせ、一番良いと思わ れる方法を検討して対応してい る。これまでも看取りを経験 しており、家族の信頼も厚く 、最期までここにお願いた いとの要望もあり、併設特養 の看護師との連携も取れてい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	一人ひとりの職歴や生活歴等 を十分把握し、それに基づい て作成したリビングプランを 活用して情報を共有し、その 人らしい暮らしに尊厳をも って対応している。呼びかけ 方も「○○さん」「○○先生」 等、相手に合わせて対応す るなど、それぞれのプライド を損ねない配慮が行われて いる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切にし、その日 をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペース、 会話の速さ等にあわせた支 援を行っている。当日午前中 は、こたつでゆっくりくつろ いでいる人、部屋でやすんで いる人、野菜を切るなど昼食 の準備を手伝う人と、自由 に過ごす様子が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員も同じテーブルにつき、和気藹々と談笑しながら楽しくなされていた。食事の準備は、入居者のその日の状況にあわせて声かけし、誘導しており、当日は数人の入居者が人参の皮をむいたり大根を切る姿が見られた。敷地内の畑ではきゅうり、にがうり、なす、トマト、ねぎ、大根等が収穫され、時に食卓にのぼり、皆でいただくのも大きな楽しみである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は、少し大きめのものを使っており、一人がいい人は一人で、仲のいい人と入りたい人は2人で入浴している。回数や時間帯は希望に応じており、毎日の入浴や夕食後の入浴にも対応している。入浴の介護技術研修を受けており、入居者も介護者も共に楽に気持ちよい入浴ができるよう、考えた実践となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事づくり、後かたづけ、茶碗洗い、畑仕事等、本人が得意なこと、希望することを自然にできるよう、声かけし誘導し、自信につながっていくよう努めている。縫い物が好きな人にはぞうきんを縫ってもらったり、釣りの好きな人と釣りに行く計画もある。また、晩酌される方にも対応するなど、一人ひとりの趣味嗜好に合わせた活動が心がけられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩、買い物、通院等の他、熊本市への旅行、花見や紅葉見物、芝居鑑賞、地域のお寺参り等、外出の機会ができるだけ多く持たれている。また、希望がある時は家族の協力を依頼し、外出・外泊の支援も積極的にやっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけておらず、柔らかい鳥の声のセンサーで出入りは把握できている。リビングを取り囲むように居室が配置され、入居者の動きが察知できる構造になっており、常に居場所を把握し見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も参加して年4回避難訓練をおこなっており、うち2回は消防署に協力・指導を得ている。特養併設であり、災害時には協力連携の体制がとれているため、心強い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>特養の管理栄養士に、栄養バランスについての意見をもらったり、柔らかく食べやすい調理の仕方についてアドバイスを受けている。食事や水分の摂取量は記録し把握しており、摂取量の少ない方については、栄養補助食品を使ったり、水分量も必要な目安をもって、不足しないよう留意している。一人ひとりのその日の状態で、普通食・刻み食・ミキサー食等多様に対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂・リビングの共用空間は淡く柔らかい照明が使われ、小物・調度品など和風で落ち着いた趣がある。テーブル・ソファ・こたつ、また、ちょっとした小上がりスペースがあり、入居者がくつろげる空間となっている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族の写真・使い慣れた道具・家具を配置し、個別性のある自分の部屋になっている。「紅葉は私の部屋がお勧め」と自慢する入居者もあり、居心地の良さが窺えた。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひかりの園ビハール館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	上天草市
記入者名 (管理者)	計画作成担当 福田千津子
記入日	平成 20 年 10 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	そのひと 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に基づき、入居者の尊厳を大切に、「その人がその人らしく生活を送る」ことを支援する。ターミナルステージにおける対応も視野に入れ、外部機関、医療機関(個々の主治医)と連携を行い、入居者、家族や地域とのより深い信頼関係を築く。家族、知人、地域との行き来が自由でなつかしい出会いの場を大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員が、運営理念を述べる事が出来、運営理念「ビハラー」=安らぎの場所を目指している。又個別ケアの検討・実施を通してその実現に取り組んでいる。全体会議・GH会議・日々の申し送りにて指導・情報を共有している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	GHの運営理念啓発、理解のために運営推進会議時に説明や広報誌の発行、面会者への広報誌の配布等を行っている。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小高い丘の上であり、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえる環境ではないが、地域の小学校や保育園に入居者の方と一緒に折り込みチラシを利用しゴミ箱を作り寄付しそこでGHを知って頂ける場をつくっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には積極的に参加するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	GHとして地域に貢献できる事は何かと考え、入居者と職員が協力し折り込みチラシでゴミ箱を作成し地域の小学校や保育園に寄付している。	○	地域へのボランティア募集をし、入居者と共に漬物作りや入居者の要望に沿った活動が出来る。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	GH会議を通して、自己評価、外部評価の意義について管理者から全職員へ説明があり理解し、改善項目については早急に検討、対応しケアの向上に繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で実績(入居、退居、入院、外出、外泊等)、活動、日常の様子の報告を行い、行政、民生委員、家族の意見を伺いサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	季節行事である、素麺流し、餅つき、バーベキュー等に案内を行い参加して頂き、入居者、職員、地域との交流を目的としサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修委員会年間計画として権利擁護の研修を取り入れ、管理者より「権利擁護と命の尊厳」についての講義があり、学ぶ機会をもうけている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修委員会年間計画として身体拘束防止研修を取り入れ、管理者より「身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について」講義があり学ぶ機会をもうけている。又市の虐待防止ネットワークにも参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事管理制度を取り入れ、職員一人一人にチャレンジシートを作成し、目標面接を行い人材育成に取り組んでいる。施設内では研修委員会年間計画に添って学ぶ機会をもうけ、介護技術についてもRX組青山先生を招き、業務改善や技術の向上にも積極的に取り組める体制がある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能、グループホームの天草支部連絡会議での研修や意見交換がある時に参加したり、当施設内で外部講師を招き介護技術研修を行う時は、他施設へも声掛けしネットワークづくりに取り組んでいる。	○ 管理者、計画作成担当は他施設との交流を持ちネットワーク作りに取り組んでいるが、今後は個々の職員が同業者の仲間を作り、意見交換や情報交換が出来る場を作っていけるよう計画している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の歓迎会や職員会でのミニバレー大会、バーベキューなどを行い、気分転換が出来る場をつくっている。職員間づくりに気を配っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事管理制度において、面接を行い、資格取得等について支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時、本人からは認知症により不安な事や要望を直接聞き取る事は困難なケースが多いが、日常的な会話の中からや表情から少しでもくみ取る事が出来き、入居時の移り替わることへのダメージを少しでも軽減出来るよう務めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時に施設の方針の説明を行い、実際に入居者の生活されている状況を見て頂きながら、不明な点、不安な点に対しその都度説明を行う。入居までの期間が未定であり、その間にいつでも相談受付が出来ることを伝え、またGHからも待機期間の間不安な気持ちが少しでも軽減出来るよう状況、状態確認の連絡を入れるように務めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族環境、地域との関わり、現在利用されている在宅サービス等、現在の状況を踏まえた上で、本当に必要とされているサービスは何かを見極め入居のみでなく、在宅で過ごせる可能性を視野に入れ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前調査を行い、生活歴、家族構成、心身の状況等を把握し、介護計画を入居者、家族と相談しながら作成している。又特に初期については、面会の頻度を増やしながらか、関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作りや野菜作り、園芸などに関して、教えて頂く機会をつくっている。又昔からの伝統行事の内容や方法も教えて頂いている。(正月、お盆、彼岸等)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	GHでの行事参加(盆踊り、運動会、家族会旅行、望年会等)を促している。家族と共に季節の野菜で食事の下ごしらえ(つわ剥き、豆剥き)をしたりと家族との輪を大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問出来、訪問時は居心地よく過ごせるように積極的に取り組んでいる。和室やリビング、居室に案内し、家族だけで過ごす時間を大切にしている。又家族と連携を取りながら、外出支援や自宅への帰省などを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等として、地域の人達が遊びに来たり立ち寄り頂けるように取り組み、懐かしい出合いを大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の助け合う気持ちが自然に芽生えてきており、その会話や行動(行為)をさりげない形でサポートしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も見舞いに行ったり、退居された家族からも来館あったりと、契約終了後もお互いが行き来しやすい雰囲気づくりに心掛け継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の家族構成、職歴、生活歴に配慮し、その人の思いを大切に、じっくり向き合い会話の中から、要望をくみ取り、どの場面においてもその人のペースでその人らしく生活していただけるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、家族や日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の日常の状態を把握し異常時の早期発見、早期対応に務めている。毎日バイタル測定し日々の変化に気をつけている。変化については、ケース記録に記載し、申し送りを通して全職員へ伝達し、状態、状況の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人一人にじっくり向き合い、個々に応じた生活支援を計画書等にそって行っている。個々の要望に応じた趣味活動、外出、外泊等を家族と共同して実施している。医療面についても連携を強化して行っている。個々の生活歴を基にその人らしく生活して頂くために個別のリビングプランを作成し職員間の情報共有に役立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行っている。状態変化に応じ随時の見直しを行っている。計画書作成前には家族、担当職員の意見も取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、ケース記録に記入している。それを基に担当者会議にてスタッフの意見や思いを計画作成に取り入れるようにしている。状態変化があった場合には担当者会議を開催しケア内容の変更を話し合い、職員間の情報共有を行っている。個別にリビングプランを作成し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望についてはインテーク時のみでなく、本人の日常生活や変化していく家族の要望などを家族面会時に聞き取るなどし、柔軟な支援を行っている。(帰宅、外出、外泊支援など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地区の民生委員に参加して頂き、意見を伺いケアの向上に繋げている。又運動会開催時には民生委員の参加もある。地域の物産館や公共の施設に出掛け地域交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性がある時は他のサービス事業所や包括支援センターの協力を得ながらサービス利用に繋げて行く体制はあるが、現状では要望なく行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性がある時は他のサービス事業所や包括支援センターと協働していく体制はとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者又は家族が希望し又は納得している医療機関、歯科医療機関を受診している。各入居者の主治医と連携を取っている。急変時夜間帯も迅速に対応して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、家族や日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かしている。リビングプランを作成し情報共有出来るよう活用している。又個人情報の取り扱いについては十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人の意思、思いを大切にしている。買い物、外食などを取りいれ自分で決めたり、選択したり出来る場面を多く持っている。意識的に取り組んでいる。例えば、自己決定が難しい場合は「選択、比較決定など。」	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の動作や会話のスピードなどに合わせて対応している。訴えがあった場合はゆっくり時間をかけ話を聞き納得されるまで向き合い対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧等を希望される方へは準備、声掛、援助し、一人一人の個性を大切にしている。希望に応じて行きつけの美容室への外出なども行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のふれあい市場に出掛け食材選びをし、旬の野菜で入居者と共に献立を考え、職員も共に食事をし、一人一人の嗜好品を取り入れたり、食事の雰囲気作りに気を配り食欲を高めている。準備や片付けについては、一人一人のその日の心身の状態に合わせて声掛している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせ、家族、医師の意見を伺いながら好みの物を一人一人の状況を把握し日常的に楽しめるように支援している。移動パン屋でパンを購入されたり、晩酌される方もあり、その日の気分で提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、一人一人の尿意の察知に気を配りさりげなく誘導している。個別排泄プランを作成し活用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間等希望に応じてゆっくり入っていただいている。又気持ち良く入浴して頂くために、外部講師より介護技術研修を受ける体制がある。又入浴を好まれない方には、日、時間を決めず声掛けしている。希望の方は夕食後に入浴される方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを個別・日別に把握し、申し送り時情報共有し安眠に向けた対応をとっている。必要に応じ個別対応として添い寝介助も行っている。不眠の原因を明らかにし、その改善に努めている。又昼寝についても個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	館内での役割が自然発生的に生じている。その事を支援しつつ、常に自信を高めるような声掛けや働きかけをしている。共に喜びや悲しみなどの感情を表現する。入居者の出来る事を認め、積極的に声掛けしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に寄り、日常の金銭を管理していただいている。金銭管理が難しい方であっても、買い物に出掛ける時は、財布を持って頂き購入された分の支払いは自己で行って頂くなど、金銭管理能力の維持に努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に外出の希望を伝えられるような雰囲気作りと、入居者の出かけた場所などを日常の会話の中からくみ取りそれを立案し、外出の機会作りを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者や家族と相談・協力して、行事での外出や旅行等の機会をつくっている。またGHとしても外出の希望を叶えるよう支援している。毎年一回は遠隔地(熊本市内など)へも希望に添って旅行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に応じて、手紙での通信援助や電話使用時の援助など、日常的に利用できるよう支援している。携帯電話を持参されている方もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等が気軽に訪問でき、訪問時には居心地良く過ごせるように、又懐かしい出合いを大切に思い取り組んでいる。面会時には和室やリビング、居室に誘導し家族、知人、友人だけでの時間を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修年間計画として身体拘束防止研修を取り入れ、管理者より「身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について」講義があり学ぶ機会をもうけている。当ホームでは身体拘束はしたことが無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などには鍵は掛けていない。外出の察知の為に、柔らかい音の鳥のセンサーを設置し又随時入居者の居場所の把握を常に行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に意識して、見守り出来る場所にいる。又職員間の声掛け、連携を行っている。細かい物音への迅速な確認、対応を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、その通りに実行している。一人一人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が適確に対応出来るよう、研修に取り組んでいる。再発防止策として、ヒヤリハットを作成し活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応のマニュアルに応じ対応出来るようにしている。緊急時に迅速に適確、適切な対応が出来るよう「緊急時の対応」の研修を取り入れている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4回/年 消防署等に依頼し立会いの元、防災訓練を行っている。又緊急時の連絡網を備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人の起こり得るリスクについて、歩行状態、食事摂取状態等近日の状態、状況報告を面会時に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員へ顔色、全身状態、様子等を日頃から一人一人良く観察し、体調の変化や異変に気づけるよう身に付けている。又併設である特養と医療連携体制をとっており、連絡、連携を図っている。対応後も日々の申し送り場にてスタッフに伝達している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人一人が医師の指示通りに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。内服薬説明文書に基づき確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳や食物繊維、唐芋の摂取や、散歩等の運動の機会を取り入れ対応している。個別にはオリゴ糖を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔の清潔を日常的に支援している。1日3回(朝、昼、夕)支援している。必要時は歯科医師の協力医の往診がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録表(食事摂取量、水分摂取量)を記載し把握を行っている。食事、水分、摂取量の少ない方へは個別対応を行っている。(嗜好品の取り入れ等)一人一人の状態に合わせて、咀嚼、嚥下状態を考慮し普通食、刻み食、ミキサー食、その日の状態や素材によって多種多様に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づき対応できるようにしていると共に、研修委員会年間計画として「感染症対策と実際」の研修を取り入れている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	事業所内での衛生委員会にGH計画作成者が出席し、注意事項や管理栄養士からの指導事項を全職員へ伝達し、実施している。調理器具は使用前には必ず強酸水で除菌し使用し、食材も強酸水で除菌した後水洗いする等食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は構造的に家庭的雰囲気を作っている。又玄関先には植物や水連鉢を置いたり、建物周囲にも広々とした花壇を作り四季折々の花を植え雰囲気作りも行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いずれも家庭的な雰囲気を有しており、備品等についても家庭的なものをそろえている。特に季節の花を生けたり、押し花や絵手紙を飾ったりと和らいだ雰囲気作りにも取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。(リビング、和室、囲炉裏の間、各居室)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ自宅で使い慣れた馴染みの物の持込を依頼している。一部の方には自宅で使用したものを持ち込み、環境作りを行っている。個人に応じた介護用品を適切に配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調は適切に配慮している。気になる臭いや空気のだよみがある場合は室温を確認しながら換気を行っている。個別で悪臭対策として芳香剤の使用やトイレや床清掃時に強酸水を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのファンレストテーブルや浴室の構造、共用・個室手洗いの高さ、調理台の高さや位置、ダイニングテーブルや椅子の高さなど構造的に十分に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の要望や特技、落ち着けるものが自然に役割となるよう声掛け、援助し楽しみや出番を見出せるよう支援している。(自然発生的役割の支援)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やテラス、裏庭等で日光浴、夏は夕涼みしたり、入居者の方と干し梅や干し大根を作る場としても活用し、又GH裏では畑作りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営理念「ビハーラ」＝安らぎの場所の実現を目指しています。入居者の尊厳を大切に「その人がその人らしく生活を送る」ことを支援しています。入居者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知るために、本人、家族との日々の会話の中から探り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにリビングプランを作成し活かしている。「おそれなやめるもろびとの憩いの家とならんかな。」ホームとしては、入居者の状態の変化がある中で、今の状況でホームとして地域へ貢献できる事、地域との交流が図れることは何かを考え、その状況に合わせた地域交流を図っている。